

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## シャープファイナンス株式会社（証券コード：-）

### 【据置】

|          |       |
|----------|-------|
| 長期発行体格付  | A     |
| 格付の見通し   | 安定的   |
| 国内C P 格付 | J - 1 |

### 格付事由

- (1) 芙蓉総合リース（FGL）の連結子会社（65%出資）、シャープの持分法適用関連会社（35%出資）。リース事業を主業務とし、シャープグループ向けの保険代理店、旅行代理店の業務などを行っている。格付には、FGL との資本、人事などでの結び付きに加え、資産の健全性と利益の安定性が反映されている。FGL との結び付きについては、当社の中堅中小企業を中心とする顧客基盤が、親会社の大企業を中心とする顧客基盤を補完していること、FGL 連結の取扱高や利益に対する当社の貢献度が大きいことなどを踏まえて、FGL グループの戦略上、当社は極めて重要な位置付けにあるとみている。
- (2) 中堅中小企業向けベンダーリースの営業基盤に強みがあり、審査速度や顧客対応などの面で優位性を発揮することでベンダーを囲い込んでいる。得意とする医療機器の営業に加え、FGL との協業や首都圏での営業人員増強などで新ルートの開拓に注力しており、主要な収益源であるベンダーリースの取扱高の推移は安定している。シャープグループの設備投資に絡むリース取引や同グループ向け保険代理店などの業務が落ち込んでいるため、資金原価控除前の粗利益は弱含んでおり、その傾向は今後も続く可能性がある。しかし、ベンダーリースの安定した取扱高の推移や転貸リースから自社リースへの切替などに支えられ、粗利益の水準が大幅に低下していくことはない JCR はみている。ROA（経常利益ベース）は16/3期で1.7%と良好である。管理費などのコストコントロールが厳格なため OHR が40%台と低く、信用コストや資金調達コストも抑制されている。
- (3) シャープグループ向けの設備投資案件を取り扱っており、また同グループ向けの債権を多く保有しているため、同グループの設備投資の動向や業績次第で当社の損益や財務が影響を受ける可能性がある。しかし、当社の粗利益の多くはベンダーリースからの収益であり、当社の期間損益や資本の厚み、リース対象物件の分散度合いや価値などを踏まえると、損益や財務へのマイナスの影響を懸念する必要性は低いと JCR はみている。同グループ向けを除いた債権は小口分散が効いており、延滞債権も少なく、資産の質に大きな問題はみられない。
- (4) 資金調達の構成は、提携先のリース会社に転嫁する転貸リースが4割弱、銀行借入が4割弱、CPが2割弱、債権流動化が1割強。転貸リースによる調達は長期の実績があり、引き続き重要な調達手段であるが、調達コストの抑制や採算重視の観点から、その調達比率はピーク時の8割弱から引き下げられている。銀行借入の比率は上昇しているが、調達窓口は多岐にわたり、各金融機関との取引も安定している。

（担当）本多 史裕・木谷 道哉

### 格付対象

発行体：シャープファイナンス株式会社

### 【据置】

| 対象      | 格付 | 見通し |
|---------|----|-----|
| 長期発行体格付 | A  | 安定的 |

  

| 対象         | 発行限度額   | 格付  |
|------------|---------|-----|
| コマーシャルペーパー | 1,400億円 | J-1 |

## 格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2016年11月9日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三  
主任格付アナリスト：本多 史裕
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「リース」（2013年7月1日）、「親子関係にある子会社の格付け」（2007年12月14日）として掲載している。
5. 格付関係者：  
（発行体・債務者等） シャープファイナンス株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

## 株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル